

# 大学院教育支援機構 企業寄附奨学制度（DDD） 報告書

氏名	小坂 唯心
研究科・専攻	農学研究科 応用生命科学専攻
修士/博士・学年	博士後期課程 2 回生
支援企業名	ニプロ株式会社

## 奨学金を得て行った研究の成果

2023 年度 DDD による支援を頂いた結果、経済的な不安がなく研究に集中できた。支援を得て研究を加速させた結果、以下に記載する成果が得られた。

### ● 複数の国内学会での受賞

第 75 回日本生物工学大会（2023）では、241 講演から 37 件が選出される、「学生優秀発表賞」を受賞した<sup>1</sup>。また、第 46 回日本分子生物学会年会（2023）では約 200 件の審査対象から 27 件が選出される「MBSJ2023 サイエンスピッチ優秀発表賞/MBSJ2023 Best Science Pitch Award」を受賞した<sup>2</sup>。

### ● 国際学会での発表とプロシーディング（抄録集）への掲載

研究成果を DiscoverBMB 2024（アメリカ生化学・分子生物学会）で発表した。また、発表した成果はプロシーディング（抄録集）に掲載された<sup>3</sup>。

1. 学生優秀発表賞の審査結果について

([https://www.sbj.or.jp/2023/news/news\\_student\\_award\\_20230915.html](https://www.sbj.or.jp/2023/news/news_student_award_20230915.html))

2. MBSJ2023 サイエンスピッチ 優秀発表賞 受賞者

([https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/pdf/sp\\_excellence\\_award\\_jp.pdf](https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/pdf/sp_excellence_award_jp.pdf))

3. JBC Volume 300, Issue 3, Supplement, March 2024, 106903

(<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0021925824013760?via%3Dihub>)

## 産学協同の取組における成果

産学協同の取組みについて、大学院教育支援機構の皆様と京都大学渉外部の皆様にご機会をいただき、以下の成果が得られた。

### ● 大学院教育支援機構主催 DDD 産学共同交流会での研究発表

「研究の社会での活かされ方を把握したうえで研究計画やキャリアプランを考えられるよう、企業の方々との密な交流を通じて業界や企業のニーズや動向、産学連携の事例を理解することを目指す」ことを目的とした DDD 産学共同交流会（2023 年 12 月開催）において研究発表を行った。

産学連携の企画でのプレゼンテーションは初であり、参加される方へプラスとなるようなものを提供できるかが当初不安だったが、支援企業の担当者の皆様（竹原様、矢倉様、樽林様）からポジティブなコメントを多くいただき、「進みたい方向に信念をもって意欲的に挑戦していただきたい」と激励していただいた。また、参加された大学院生の方（嶋貫様）からも「社会の役に立ちたいという初心を忘れず、これからの研究をしようと再度実感できる時間となり、大変嬉しく思う」というコメントを頂き、この企画で自身が果たすべき義務を果たせたと思えた。

### ● 広報誌へのインタビュー記事掲載

私が取り組む研究や奨学制度へ志望した理由などについてインタビューをしていただき、DDD 奨学制度の広報に助力させていただく機会を得た。広報誌「KU FAN BOOK 4 号」<sup>4</sup>および「奨学生・研究者の声」<sup>5</sup>にインタビュー記事を掲載していただいた。

<sup>4</sup> KU FAN BOOK 4 号 (<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/report/newsletter/>)



<sup>5</sup> 「奨学生・研究者の声」 (<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/report/voice/>)



## 今後の展望

2023 年度までに達成した研究を発展させ、学位取得予定である 2024 年度の間に次のマイルストーンとなる研究成果を論文化することを目標とする。卒業後もアカデミアで研究に従事し、新規中分子医薬で創薬に革新をもたらすという目標の実現に向けて研究を継続したいと考えている。